



久しぶりに旅をした。飛行機で往復、レンタカーで目的地を巡った。スマホで有名観光地を検索し、イチ押しグルメ、名産、みやげ等「行ったからにっ！」を探し出し予約。目的場所をカーナビに入れる。ルート、所要時間、到着すべてがわかる。

福岡・博多・長崎・佐世保・唐戸・下関・大宰府。ゴマ鯖から中洲屋台ラーメン、チャンポン発祥の地、チーズフォンデュ、朝市の寿司、梅ヶ枝餅。

みやげはカステラ、七色のビードロ、鍋用にふぐをおろしてもらい、それなら焼酎も。しまいには空港の荷物預かりでチェックされて、三人して床にスーツケースを広げ、詰め直し無事セントレアへ。

「ああ、楽しかった」「ぜ～んぶ 回ったね」「その中でいちばんは？」 「九十九島、石岳の夕陽」「夕陽は待ってくれないモン。その時、その瞬間そこにいないと！走るわよ!!」 走った、走った、走った。肩で息をし、心臓をおさえ深呼吸しながら、茜色が島々の向こうの水平線に吸い込まれていくまで、ただただ眺めていた。

「高速道路で観たオリオン座」街路灯もなければ、遙かな人家の灯りもない。車のライトだけの漆黒をひた走っていた。「あっ？オリオンだわ。オリオンがぜんぶきれいに見えてる」車を止めて降りて観ようとなった。かろうじて待避所のような路肩を見つけ、ハザードをつけ、車を降りた。大歓声。オリオンばかりか、五等星、六等星、細やかな星々。うっかりするとオリオン座さえ見失いそうな満点の星であった。

不思議なものだ。完璧な行程にはなかった事に人の心は踊っている。スマホをいまひとつ使いこなせない世代には「旅ってそういうものよねえ」と思うけれど、70代の婆様2人、1才にもならない初旅体験の子連れママ。事情も関心も違う仲間をスマホ片手にレンタカーを乗りこなしていく若者が支えてこそそのみんなが満足した旅であったとつくづく思う。時代はこうして混ざり合っていて変わっていくのだ。未来をゆく若い力と経験値に自信をもち、柔軟な老人と、互いに尊敬しあえることを見つけた豊かな旅であった。

(みどり多文化共生ボラネット 浅田千佐子さん)



晩秋のある日、父が突然入院し手術をすることに。一人になる母が気にかかり、実家に一週間ほど帰ることにした。帰省する前に、急ぎの用件だけ片付け、家族や仲間にお任せできることはお願いし、PCを携えて帰省した。スマホとPCがあれば、たいいていの事はできてしまう。滞在中は名古屋にいる時と変わらない毎を送ることができ、その便利さを実感した。

自動運転の実現に向けて自動車メーカーはしのぎを削り、最近AI（人工知能）を駆使した「AI美空ひばり」なるものまで登場した。IoT（物のインターネット）など私たちの生活がますます便利になる世の中が到来しつつある。しかし便利・快適な暮らしを追及するだけで、はたして良いのだろうか？

身の周りから世界に目を転じてみよう。なかなか解決の糸口が見つからない近隣諸国との交渉、アフガニスタンで用水路建設や医療活動を続けてきた人に突き付けられた銃口。

また環境問題では温暖化対策に早急に取り組まなければ、安心して次の世代に手渡すことができない。「国」や「宗教」という概念を取り払い、同じ「地球人」としての視点からお互いに活路を見いだせないものか。そんな中、一人立ち上がったグレッタさんの勇気と行動力にエールを送りたい。彼女を見て、子ども達に未来を託す私たち大人が真剣に考えていかなければならないと改めて思った。

一人では何も変わらないかもしれない。でもみんなで力を合わせれば何かが起きる。そう、ラグビーの「One Team (ワチム)」の精神で、令和2年は足を一歩踏み出してみよう！

(M.K.)

明けましておめでとうございます！

去年は、「令和」という新元号に期待を込め、台風15、19号による相次ぐ災害に心を痛め、消費税の増税に右往左往し、ラグビーW杯日本開催で「にわかファン」として熱狂し、首里城の火災に呆然となるなど、思い出すだけでも、目まぐるしく駆け抜けた一年でしたが、令和初のお正月を皆さまはどのように迎えられましたか？

ボラネットみどり会員向けのこの情報紙「かわら版」も不定期ではありますが、何とか発刊を続けています。私は2009年の22号から「かわら版」作りに携わり、もう10年が過ぎました。今年はオリンピック・イヤー。「参加することに意義がある」ではないですが、かわら版がより読みやすく身近なものになりますように、これからも皆さまからの情報提供、情報発信をお待ちしています。

本年もボラネットみどりならびにかわら版を宜しくお願い致します。

(ボラネットみどり会長 近藤正子)

ボラフェス準備 進行中・・・本番まであと1ヶ月！

今回15回目となる「ボランティアフェスティバルin みどり」開催が近づいてきました。

15回の記念企画として「ピニャータで遊ぼう！」を行います。すでに昨秋からの月例会にご出席の皆さまにはピニャータの見本をお示ししていますが、ご存知ではない方は「外国（メキシコ発祥）のくす玉割り」をイメージしていただけるとお分かりいただけるかもしれません。

2月22日（土）当日は、このピニャータを合計4回行います。小さなお子さんから大人まで参加でき、一緒に楽しんでいただけるように現在、やり方（ルール）を思案中です。

また会場内の各ブースを回ってスタンプやシールを集める「スタンプラリー」も同時に行います。こちらはすべての来場者に楽しんでいただける企画です。

一人でも多くの方に来場していただけるように、今回はボラフェスのチラシを増刷。会場近隣の小・中学校や子育てサロンなどにも配布する他、緑区を巡回する市バス車両内にも置かせてもらうなど、さらなる周知を図りました。

◇ボラフェスの準備&作業にご協力ください！

今回のボラフェスの目玉となる「ピニャータ」を製作する他、会場で使う掲示物、看板などボラフェスの準備・作業を以下のように行います。前日（21日午後）の会場設営、当日（22日）のお手伝いも皆さまにお願いしていますが、ご都合がつくようでしたら、事前準備にもご協力をお願いします。

作業日程：2月3日（月）、10日（月）いずれも午後1時～3時（予定）

場所：緑区社会福祉協議会（緑区在宅サービスセンター内）ボランティアルーム

作業内容など詳細は、社会福祉協議会事務局までお問い合わせください。

TEL 891-7638 FAX 891-7640

E-mail: midori-shakyo@md.ccnw.ne.jp

(担当 渡邊さん、神坂さん)



市ボラ連 関連ニュース

① 市ボランティア連絡協議会 例会 & 第5回情報交換会の報告

去る11月18日（月）の午後、私たちボラネットみどりの拠点である緑区在宅サービスセンターにて市ボラ連の例会ならびに第5回情報交換会が行われました。参加者は他区からいらした方を含めて総勢26名。中にはカーナビに古い社協の住所を入れてしまい、行き先がわからず迷子になる方もいらっしゃったようです。何とか無事たどり着かれましたが。

情報交換会の前半は「みどり多文化共生ボラネット」の会員4名によるグループの活動紹介。地域に住む外国人を対象に日本語教室を開いたのがきっかけで、その後は七夕やクリスマスなど年間行事を一緒に楽しむようになったこと。みどり多文化交流会を毎年開催しているが、スタッフが高齢化し、活動の担い手の確保など問題もあることを発表されました。

後半は交流タイム。4つのグループに分かれて「多文化共生って何だろう？」というテーマから始まり、だんだん脱線しながらも様々な感想や意見が飛び交いました。



スライドを使って活動を紹介する
みどり多文化共生ボラネットの村松代表



6～7名のグループに分かれて意見交換

② 市ボランティア連絡協議会 「第3回 まなびの場」開催について

日時：令和2年1月26日（日）13：30～16：00

会場：名古屋市総合社会福祉会館7階（地下鉄名城線「黒川」駅から南へ約300m）

- 内容：① 実践報告（13：40～） 南区のボランティア「たねの会」
② 多文化共生のお話（14：10～）名古屋国際センター地球市民教室講師の3名（中国、ベトナム、ブラジル出身者）による母国の紹介や名古屋での生活について
③ 交流会（15：10～）講師の方も交えて、お茶を飲みながら情報交換&交流

入場は無料、申し込み不要です。ぜひこの機会に多文化共生について学んでみませんか？ご友人などお誘い合わせの上、ご参加ください。

スキルアップ研修② 開催します

研修第2回目のテーマは「貧困家庭の学習支援」について。こどもNPO緑児童館の職員の方からお話を伺います。

3月2日または9日（いずれも月曜日）のボラネットみどり例会時に実施予定です。たくさんの会員の皆さまのご参加をお待ちしています。

ちょこっとボランティア、体験しました！

昨年8月末、残暑が厳しい中、ボラネットみどりの会員の皆さんが普段の活動と違ったボランティアに挑戦しました。



全国盲女性研修大会のボランティア

全国から多くの視覚障がい当事者やご家族、関係者が集まる第65回全国大会が、8月28、29日の二日に渡り「ウィンクあいち」で開催されました。市社協から提供された大会ボランティア募集の情報をボラネットみどりの例会や各グループの例会などで紹介したところ、たくさんの応募がありました。6月、7月には事前研修会も行われ、視覚障がい者の接し方について学んでから大会当日を迎えたそうです。以下、参加された皆さんの感想です。

★いくつになっても勉強です。ボランティアの研修会が1ヶ月ほど前にあり、盲に関して素人の私、身構えて参加。接し方の難しさがわかりました。実践で1～10まですべて言葉で説明、弁当の中身を知らせるにも何ひとつもれなく知らせる、歩く時、階段の上り下り、トイレの説明。躊躇していたら不安を感じさせるのでは？気持ちの余裕を持ち、接することが一番かと思いました。当日は駅から会場までの案内、各所に立ちました。

（緑鯨城会 橋本幸子さん）

★雨の中、全国各地から約700人の方が参加された大会。ほとんどの方がガイドボランティアさんと一緒に来られていました。盲導犬と一緒にの方も何人かみえました。案内係でしたが「地下から行く道はありませんか？」との問いかけで途中までご案内しましたが、ちゃんと伝えられたか後で不安になりました。

（点訳ポチの会 宮澤悦子さん）

★音訳ボランティアをしながら、視覚障がいを持った方とまったく接することのなかった私。全国盲女性研修大会のボランティア応募は、ハードルが高かったのですが、事前に研修会がある、という事で、思い切って、まずは研修に参加してみました。参加者2名につき、視覚障がいの方1名が半日の研修にずっとおつきあいしてくださり、実習中心の、実践的でとても内容の濃い研修会で、不安はあったものの、ボランティア参加を決めました。当日担当したのは会場内の、エレベーター付近の案内。

多くの参加者がガイドの方を同伴されていましたので、大過なく半日を終わりました。偶然にも盲人情報文化センターで音訳をしている方とコンビになり、合間には少しおしゃべりすることもできてとても楽しく活動できました。

まだまだ暑い中、会場の外での案内や、宿舎から会場までの誘導を担当されたボランティアの方もおられたので、私たちは楽なお仕事をわりふっていただき申し訳ないなあと感じました。たくさんの方が地域の仲間やサポーターの方と笑顔で参加されたり、何頭もの盲導犬が会場で出会い、実に紳士的??（笑）に静かに交流している様子など、目にすることができ、とても良い経験になりました。今後も、機会があれば積極的に参加したいと思います。

（音訳ボランティアみどり 日比敦子さん）

★このような全国的な大会のボランティアに参加するのは初めてだったので不安でした。しかし名身連、情文センターの職員、スタッフ、ボランティア、慣れた方が多く、私など役に立てたとは全く思えませんでした。11：00～17：00の長い時間のはずが、仕事らしい仕事といえば、交代でたった1時間。名駅と会場を結ぶ街頭でA3サイズの手看板を持ち、会場へのアクセスをご案内することでした。最初の一步がこのような小さなお手伝いで良かったと思っています。私自身の力不足に泣くことなく、失敗もなく終わることができました。また機会があればボランティアに参加します！

（音訳ボランティアみどり 近藤久代さん）